



* 今月の野菜
ししとうがらし



同映画のポスター

『下痢の人はスパイ』…
信じた愚直さと目覚め
続編期待！「地域主義」
「回帰」克服、どう描く？

鑑賞のおすすめ



[その 20]

韓国映画（2004年）
『大統領の理髪師』
（효자동 이발사）

伊藤 一郎

（朝鮮文化を知る会）

映画『大統領の理髪師』は、二〇〇四年に韓国で公開された。韓国大統領府（青瓦台）にほど近いヒョジャ洞の平凡な理髪師が韓国大統領府の理髪師となった経験をユーモラスに描いたものである。

主人公のソン・ハンモが、市民の目から日本統治下からの解放の一九四五年八月十五日からクーデターによって政権を握った全斗煥大統領の第五共和国時代までの激動の現代史を眺めている。

小説『Forest Gump』をエリック・ロスが脚色して製作されたアメリカ映画『フォレストガンプ』を連想させる回想形式の映画の構成となっている。

ソン・ハンモの息子ソン・ナツカンは一九六〇年四月一九日に生まれる。この日は韓国における四月革命（四・一九革命）が起こった日であり、李承晩大統領が退陣して韓国における民主主義が胎動し始めた日でもある。四月革命に蜂起した若者たちをかき分け、産気づいた妻を病院に連れていく場面がユーモラスである。

五・一六軍事クーデターによる尹潽善大統領の退陣後に発令された中高生の断髪令により、ソン・ハンモの理髪店は大繁盛する。映画は、朴正熙による軍事クーデター以来の国民の経済秩序への抑圧の対価としての韓国経済の成長をも暗示している。

映画『フォレストガンプ』の主人公のように「愚直」なソン・ハンモは、韓国政府からの言葉をありのままに信じスパイに見える人をそのまま申告をする。朴正熙大統領はソン・ハンモの「勇気」を高く評価して専属理髪師として採用する。しかし、一九六八年に発生した青瓦台襲撃未遂事件に関連して政府が発表した「下痢をする人はスパイ」という政府の発表をソン・ハンモはまたしても「愚直」に信じてしまう。

ソン・ハンモは下痢をした息子のソン・ナツカンに「スパイ」として警察署に連れて行く。ソン・ナツカンは中央情報部（KCIA）によって足に後遺症が残るほどの拷問を受ける。KCIAは、拷問

朴正熙と思われる大統領を
理髪する主人公



全斗煥と思われる大統領に
侮辱の言葉を言う主人公



を受けて負傷した息子をソン・ハンモの自宅前に無残にも捨て去る。足に障害が残る、立てなくなつた息子の前に、両親は悲嘆にくれる。映画は朴正熙の時代を中心に描いているが、その後、一年にも満たない崔圭夏政権を経て、第五共和国時代になる。全斗煥と思われる風貌の大統領が、朴正熙の理髪師であったソン・ハンモを呼ぶ。しかし、ソン・ハンモの気持ちは、朴正熙の時代とは異なっていた。理髪中に全斗煥と思われる大統領に対し、「閣下。髪の毛が生えたらまた来ます」との暴言を吐き、

ソン・ハンモは追い出される。その後、なぜか息子のソン・ナツカの足の後遺症が回復する。それがあたかも韓国の民衆の民主主義への目覚めを象徴するかのよう。その後一九八七年六月六・二九民主化宣言により、大統領の選挙は国民による直接選挙制となり、韓国は民主化に大きく舵を切つていったかのように見えた。しかし、一九八七年六月六・二九民主化宣言による民主化と引き換えに、不安定な政局、不安定な大統領の地位がもたらされた。大統領への政治的権限の一方で

早期の失権を繰り返している。あえて今日の韓国の民主主義をかつこ付きの「民主主義」としたい。メディアで報道されている韓国の近年の「民主主義」が、一九六三年に朴正熙が成立させた第三共和制に回帰しているからである。いわゆる「崔順実ゲート事件」により、朴正熙元大統領の娘の朴槿恵大統領は弾劾訴追され、憲法裁判所の判断により、韓国建国以来、史上初の罷免により失職した。

直接選挙で朴槿恵氏に過半数の票を投じ、韓国の憲政史上初の最初の「2世大統領」に選んだのは他ならぬ韓国国民である。

二〇一二年の大統領選挙で朴槿恵氏は、一九八七年の大統領直接選挙制復活以降初めて過半数を上回る当選者得票を獲得した。

韓国国民は、朴槿恵氏を追及するまえに、まずは朴槿恵氏を大統領に選出した自分自身を追及するべきである。筆者は、朴槿恵氏へ

の反発の反動により、かつて公営企業の外国資本への売却・民営化などの攻撃を労働者に向け、非正規雇用を反対する労働者に暴力的な弾圧を加えた地域主義の強い「元民主化運動家」の大統領の時代に回帰しないかと危惧している。歴史が繰り返さないことを祈るばかりである。

思えば韓国映画『大統領の理髪師』が描かれた第五共和制以降、六・二九民主化宣言を経て今日二〇一七年まで、盧泰愚、金泳三、金大中、盧武鉉、李明博、朴槿恵という、それぞれ異なる政治的立場と支持基盤を有する大統領が目まぐるしく交代してきた。

韓国国民は、「民主化」のために今後も自己矛盾を内包する、蓄積や連続性のない不安定な政局を選択し続けるのであろうか。

ソン・ハンモの目から見た第五共和制以降から今日までの韓国社会を描いた続編を期待したい。

もっと知りたい！もっと交流を！

[illegible]

業の壊滅
の工場②

◆ドキュメンタリー特集⑨

隠された幻の大地

[illegible]

16

23・24 厚生年金脱退手当金支給手続きの関連メモ

前へ！ 未解決 朝鮮女子勤労 挺身隊問題 光州市民の会、名古屋へ

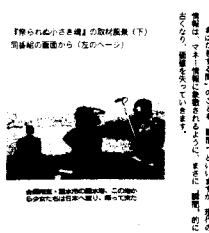
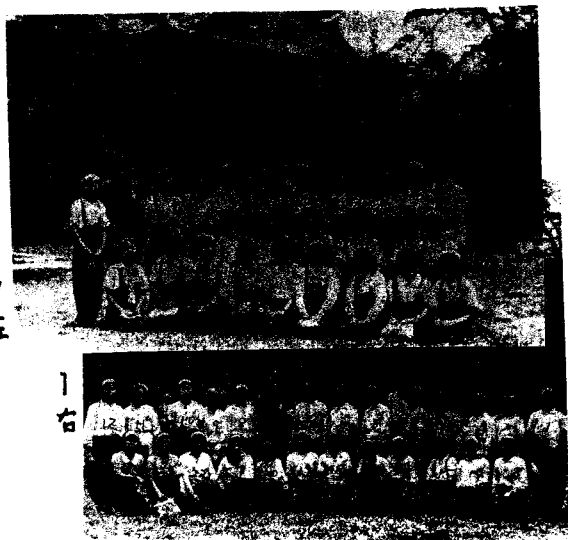
三月二二日から二五日まで名古屋に滞在中の韓国光州の市民団体（勤労挺身隊ハルモニと共にする市民の会、「わが民族」）のうち「市民の会」の三名が二十四日、日朝協会愛知県連事務所で名古屋・訴訟支援する会のスタッフと懇談。韓国光州地裁で進行中の訴訟関連証拠書類の検討等、いくつかのテーマで交流しました。

裁判勝利の力ギは豊かな証拠資料 日韓市民共同の闘いの記録整理も着手

名古屋三菱朝鮮女子勤労挺身隊事件 ／韓国光州地裁第三次訴訟第三回弁論 に向けた、証拠書類の検討対象一覧

名古屋支援会からの提案分

- 1 1944年6月ごろ、動員先名古屋での、「小隊」単位の集合写真【左＝羅州小隊（後列左に崔貞禮さん）右＝麗州小隊（金英玉さんはどこに？）】
- 2 崔貞禮さんの除籍簿にある「死亡地＝名古屋市南区豊田町字道德西の割2923」とは、「三菱重工業（株）名古屋航空機製作所・道德工場」を指す。当時の『名古屋電話番号簿』と対比して、示す。
- 3 左＝愛知県が作成した1944.12.7の東南海地震被害報告書（1944.12.9）から。注目点／朝鮮人被害が『治安状況』の項目に記述されている
右＝日本でも著名なノンフィクション作家による三菱重工業（株）名古屋航空機製作所・道德工場での東南海地震被害の記述（1968.7）。注目点／被害学徒など詳細を記すが、『朝鮮人少女』には言及せず
- 4 1970年代から1980年代前半にかけての、日本のマスコミによる東南海地震被害に関する言及例
注目点／（左）NHK報道1975.8.12～戦時下の統制下で大被害が隠蔽されたこと。（右）紡績工場の中柱などをはずして、航空機工場に転用され、地震に耐えられなかった『積み木の工場』（中日新聞 1982.8.8）
- 5～7 1987.4.29 高橋氏ら市民グループによる、東南海地震での朝鮮人少女らの犠牲事実の、調査結果の記者発表レジュメから。注目点 ① 韓国の役所への調査依頼結果（6頁）・厚生省への資料調査（7頁）などを踏まえたこと。② 市民への情報提供を呼び掛けたこと。③ 訪韓遺族調査と同年12月追悼行事の開催を発表したこと
- 8 前記記者発表翌日の、新聞報道から
- 9～11 マスコミ各社が相次ぎ訪韓、被害者遺族を取材、報道。注目点 ① 『挺身隊言説』で解放後も苦悩する遺族の姿を追う（中部日本放送、9右はその画面から） ② 番組予告も各社競った（11は東海テレビの番組広告）、③ これらの報道は、マスコミ・放送業界で、特にノンフィクション分



★カットそでの番号は『検討対象一覧』の番号に合わせています。

24	日本録	1763-64	成大中	1763	2	高麗大図書館
25	乗槎録	1763-64	元重舉	1763	5	高麗大図書館
26	槎録	1763-64	閔恵洙	1763	1	高麗大図書館
27	溟槎録	1763-64	呉大齡	1763	1	国立中央図書館
28	癸未随槎録	1763-64	卞 琢	1763	1	国立中央図書館
◎ 29	日東壯遊歌	1763-64	金仁謙	1763	4	奎章閣
30	辛未通信日録	1811	金履喬	1811	3	忠清南道歴史博物館
31	清山島遊録	1811	金善臣	1811	1	国立中央図書館
○ 32	東槎録	1811	柳相弼	1811	1	高麗大図書館

②記録画(6件9点)

件名	使行年度	制作者	制作年度	数量	所属
1 仁祖二年通信使行列図	1624	作者未詳	1624	1	国立中央図書館
2 仁祖十四年通信使入江戸城図	1636	作者未詳	1636	1	国立中央図書館
3 肅宗三十七年通信使行列図	1711	俵喜左衛門	1711	4	国史編纂委員会
4 槎路勝区図	1748	李聖麟	1748	1	国立中央博物館
5 倭館図	1783	卞 璞	1783	1	国立中央博物館
6 国書樓船図	未詳	作者未詳	未詳	1	国立中央博物館

3 文化交流の記録 (23件 25点)

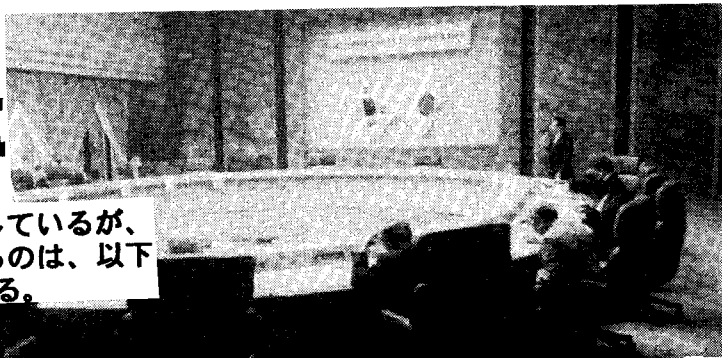
件名	使行年度	制作者	制作年度	数量	所属
1 金世濂等筆跡(詩)	1636	金世濂等	1636	1	韓国国史編纂委員会
2 兪 瑒筆跡(詩)	1655	兪 瑒	1655	1	韓国国史編纂委員会
3 李明彦(詩)	1719-20	李明彦	1719	1	韓国国史編纂委員会
4 朝鮮通信使詩稿	1811	皮宗鼎	1811	1	国立海洋博物館
5 金義信書帖	1655	金義信	17世紀	1	釜山博物館
6 秦東益筆行書	1811	秦東益	19世紀	1	釜山博物館
7 達磨折蘆渡江	1636	金明國	1640年代	1	国立中央博物館
8 墨梅図	1763-64	卞 璞	1764	1	釜山博物館
9 石蘭図	1763-64	金有声	1764	1	釜山博物館
10 鷹図	1811	李義養	1811	1	釜山博物館
11 山水図	1811	李義養	1811	1	釜山博物館
12 山水図	1811	李義養	1811	1	釜山博物館
13 山水図	1811	松菴	1811	1	釜山博物館
14 花鳥図	1811	李義養	1811	1	国立海洋博物館
15 花鳥図	1811	槐園	1811	1	釜山博物館
16 朝鮮通信使奉別詩稿	1811	松崎慊堂等	1811	1	国立海洋博物館
17 趙泰億像	1711	狩野常信	1711	1	国立中央博物館
18 芙蓉雁図屏風1双	1747-48	狩野宴信	1748	2	国立古宮博物館
19 源氏物語団扇屏風	18世紀	長谷川光信	18世紀	1	国立古宮博物館
20 牡丹図屏風	1811	狩野師宣	1762	1	国立古宮博物館
21 義軒・成夢良筆行書	1719-20	義軒・成夢良	18世紀	1	釜山博物館
22 朝鮮通信使報唱詩	1682	山田復軒等	1683	1	国立海洋博物館
23 東槎唱酬集	1763-64	成大中等	1764	2	国立中央図書館

★NPO法人朝鮮通信使縁地連絡協議会のHP記事を参考にしました。【編集部】

江戸時代のユネスコ 朝鮮通信使記憶遺産に 史資料を

（韓国側）

申請は日韓共同で推進しているが、
韓国側が登録申請しているのは、以下
の3分野 63件 124点である。



★名古屋市内で開かれた共同登録申請第四回日本推進部会（二〇一五・十・二八）

1 外交記録（2件 32点）

件名	使行年度	制作者	制作年度	数量	所属
1 通信使膳録		禮曹	1641-1811	14	奎章閣
2 邊例集要		禮曹典客司 司訳院		18	奎章閣

2 旅程の記録（38件 67点）

①通信使行録（32件58点）

通信使行録の和訳本は以下のとおり刊行されています。
○=若松 實氏の和訳本が日朝協会愛知県連から。
◎=東洋文庫（平凡社）から。

件名	使行年度	制作者	制作年度	数量	所属
○ 1 慶七松海槎録	1607	慶 暹	1607	1	国立中央図書館
○ 2 吳秋灘東槎上日記	1617	吳允謙	1617	1	国立中央図書館
○ 3 李石門 扶桑録	1617	李景稷	1617	1	国立中央図書館
4 東槎日記	1617	朴 淳	1617	1	奎章閣
○ 5 姜弘重東槎録	1624	姜弘重	1624	1	国立中央図書館
○ 6 任参判丙子日本日記	1636	任 統	1636	1	国立中央図書館
7 金東溟海槎録上・下	1636	金世濂	1636	2	国立中央図書館
8 金東溟槎上録	1636	金世濂	1636	1	国立中央図書館
9 黄漫浪東槎録	1636	黄 尿	1636	1	国立中央図書館
10 趙龍洲 東槎録	1643	趙 綱	1643	1	国立中央図書館
申竹堂海槎録	1643	申 縉			
11 申竹堂海槎録	1643	申 縉	1643	2	国立中央図書館
○ 癸未東槎日記	1643	著者未詳	1643		
○ 12 南壺谷扶桑録上・下	1655	南龍翼	1655	1	国立中央図書館
13 南壺谷聞見別録	1655	南龍翼	1655	1	国立中央図書館
○ 14 洪訖士東槎録	1682	洪禹載	1682	1	国立中央図書館
○ 15 金訖士東槎日記	1682	金指南	1682	1	国立中央図書館
◎ 16 申青川海遊録上・中・下	1719-1720	申維翰	1719	3	国立中央図書館
17 扶桑録	1719-20	金 滄	1719	2	国立中央図書館
18 随槎日記	1747-48	洪景海	1747	2	奎章閣
○ 19 奉使日本時間見録	1747-48	曹命采	1748	2	奎章閣
○ 20 趙濟谷海槎日記 一~五	1763-64	趙 曠	1763	5	国立中央図書館
21 日觀記	1763-64	南 玉	1763	4	国史編纂委員会
22 日觀唱酬	1763-64	南 玉	1763	2	国立中央図書館
23 日觀詩草	1763-64	南 玉	1763	2	国立中央図書館

★若松 實氏の和訳本の入手ご希望の方は、日朝協会愛知県連にEメール
またはfax（本会報16頁欄外参照）にお問い合わせください。



琉国物語

③

金城博己

（琉球人）

一九七一年一月十八日 PM 七時
那覇市泉崎 砂川の那覇でのアパートの部屋

今日の昼過ぎ、大宜見英雄は、大学のサークルの活動の様子を見に来てくれた砂川に、「今日、私のところに寄ってもらえませんか？」と誘われた（砂川は、家族を実家のある宮古島で暮らしてもらい、那覇での単身赴任である）。

「はい、何時ごろがよろしいでしょうか？」と、大宜見はなにか期待する思いでたずねる。「そうですね、私は六時半には部屋に戻っていますから、その後ぐらいという事でどうでしょう。」

英雄にとっては、嬉しいかぎりである。砂川が、どういう訳で誘ってくれているのかは、大体想像がつく。

（いよいよ、始まるのか。）

その思いは、若い英雄にとって、父や母に見送られて、与那国島から沖縄本島に高校進学の為、出てきた十五歳の時以来に胸が高鳴る思いである。

約束の時間に砂川のアパートを訪れた大宜見を砂川は、笑顔で迎え入れた。部屋の作りはいわゆる2DKというのであろうか。上がりこむとすぐに台所である。そしてその台所も、招きいれてくれた次の間の居間のような四畳半の部屋も、独り暮らしにしてはきれいに片付けられている。そして食卓？には大盛りのソーキ

（スペアリブの煮物）とンチエ（空芯菜）の炒め物、それにビールのためのグラスがある。

「今日、君に来てもらったのは、この間の話の続きなのですが、今日はビールでも飲みながら、ということにしましょう。それに、君も好きだろうと思ってソーキとンチエもありますから。」英雄はもちろんソーキもンチエも大好物だ。

「あらためてお話ししますが、日本政府はアメリカ側の本音を探りかねて、沖縄返還の条件として、現状のままでは残すという事です。やはり、戦後ずっとアメリカに対して錯覚したままの、上下関係の魔法がとけないものですから、アメリカの本音が読めないままなのでしょう。」ビールをついでくれる砂川の眼を見て、英雄が懇願するように

「僕には、まだよく分からない事ばかりなのですが、アメリカはベトナムの問題を抱えています。琉球沖縄の米軍基地の全面撤去という私達の願いはどうなるのでしょうか。」

「そこが大切なところなのです。ベトナム戦争は形式的には終結していますが、現実には、激しい戦闘状態がまだ続いています。アメリカの本音としては、実質的な早い終結を望んでいるのですが、正義の為の戦いだとしてベトナムに兵力を送り、軍事費を大量につぎこんできたアメリカは、今の状態、特に今の状態では、そのまま簡単に引き上げる訳にはいかないでしょう。」

「砂川さん、アメリカの特に『今の状態』というのは、どういう意味なのでしょう？」

★琉球郵便切手（一九四五年米軍占領時から一九七二年五月の「本土復帰」まで、琉球で発行）から。

「そうですね、アメリカにとつて今の状態というのは、北ベトナム、いわゆるベトナムとの戦いに完全ともいえるほどの敗北をしている状態を言います。アメリカの国、いや、アメリカ政府は、まずは東南アジアの共産化を防ぐという口実で、軍産複合体の積極的な後押しで支えられ、正義という旗をかざして、ベトナムでの戦争を押し進めてきました。」

アメリカ政府としては、あれだけ多くの犠牲者を出し、膨大な軍事費を使い続けて、何事も無かつた様に退く訳にはいけませんでしょう。国内の厭戦気分に対応どころか、前線の兵隊たちの間でも、正義のない戦いに戸惑っている状態です。アメリカ政府は、どうか、メンツを保つまま早くベトナムから、引き上げたいところなのですが、その希望は今のままでは、かなうものではないでしょう。私の米留時代の友人ハワードは、今は、アメリカ政府の農水省の職員という立場で交流が続いているのですが、実際は国務省のアジア地区の情報収集の工作員だと、私はみています。彼が最近、今までとは違って、ストレートに返還に対する沖縄住民の感情はどうなのだと私に尋ねるようになってきています。」

「では、砂川さん、アメリカのそれも大統領サイドの本音としては、どうにかメンツが立てばベトナムからの撤退、そしてその流れにのって、沖縄からの兵員の撤退と基地の全面撤去も叶う可能性はあるという事でしょうか？」

「そうですね、例えば、沖縄がアメリカの軍政府のもとから離れ、日本政府のもとからも離れて、どこにも属さないという状況をつくれれば、アメリカもそれを口実にベトナムから、そして沖縄からの全面撤退ということもありえない事ではないと思います。そのためには、アメリカがその口実にのりやすい状況を作る事、大統領サイドの意思をアメリカ国民が受け入れやすい状況、そして沖縄全体として、意思の統一を図る事が大切です。」

「ハワードさんと言う方は、国務省関係の方だとおっしゃいましたが、何故、国防省筋ではないのですか。」

「それはですね大宜見さん、アメリカ政府内も一枚岩ではないということなのです。強力な影響力を持つ軍産複合体がバックにいる国防省に、大統領の政策がストレートに伝わらないということなのでしょう。」

「しかし、沖縄の日本返還復帰は、もうあと一年四カ月後にせまっています。これまでも、復帰反対派と、復帰賛成派で長いこと対立してきて、復帰賛成派が大勢を占めるまでに、かなりの年月がかかってきました。そんな短期間で沖縄全体をまとめる事ができますでしょうか。」

「大宜見君、もう、できる、できない、の問題ではないのです。是が非でもやり遂げないといけないのです。琉球沖縄の将来のために。」

一九七一年一月二十二日 PM七時
栄野比宮城家

「啓一さんが来てくれたら、ニギヤカになつていいさー。」

洋子の母ハナは、本当に嬉しそうに夕ご飯の支度をしながら言った。

今日は、めずらしく洋子のいとこの啓一が宮城家を訪ねてきている。

「エーッ、ヨウコオ、今日は啓一もバス乗って来たから、ビールも出したらどうネエ。」 ハナが言う。

「啓一ニイサン、ビール飲むヨネエ。」

と、洋子は、もうビールとコップを持って、啓一が座っているリビングの応接セットのテーブルに置いて、

「ワタシ、注ぐのヘタだから、自分で注いで飲んでいいヨネエ。」

「ハアサツ、ヨー子ッ、最初の一杯ぐらいは、注いであげなさい。」と、洋子の言うのを聞いたハナが、少し大きな声で台所から言った。啓一はすぐに、「アイエーナー、ハナおばさん、ナンも氣イつかわないでいいのに、僕は今日、洋子に話があつてきたんサ。」

「でも、もう啓一のぶんも夕ご飯、準備してあるから食べていきなさいよ。」

と、笑顔が見える様なハナの声である。

洋子は、啓一の向かいに座り、

「啓一ニイサン、なんの話？ いい話だったらいいにネエ。」と、楽しそうだ。

一人娘で、母といつも二人だけの生活で、ときどきサミシサでも感じているのか、客が来るとはしゃいでいる様にもみえる。

「洋子はサ、琉大あたりたいて（合格したい）、勉強がんばっているみたいだけど、今度の日曜日にサ、琉大に見学しながら来てみないネ。」

「今度の日曜日っていつたら、あさってネエ。何時くらいから行くの？」

「僕が、オトーの車、借りる約束してあるから、九時くらいに行けばいいサ。」

「でも、なんで急に琉大にこうって誘いに來たの？」

「ホラ、洋子がこの前話していた、大宜見さんの送別会がある訳サ。あの人、もう就職準備するみたいだから、あんまり学校に來れなくなるって事だから、僕たちもあわてて送別会やろうって決めたわけサ。」

「ウン、私いくヨ、ゼッタイに行く。琉大見学したら、もつと元氣出して勉強できるかもヨ。」

首里城跡地の琉球大学北校舎一階の小部屋

洋子達、中部高校の教室の三分の一くらいの広さだろうか、折りたたみ式のテーブルとイス、そして人でいっぱい状態である。

（啓一ニイサンてば、こんなにいっぱい人が集まるってナンも言わなかったのに、三十人くらいいるかネエ）洋子がすこし戸惑っている、背の高い男性が窓際のあいている場所に立つて、ちよつと手をかざす様になると、部屋の中が静かになった。

（アツ、大宜見さんだネエ。）一ヶ月ぶりの再会であるが、見間違える事はない。

英雄は一八〇センチはあるだろう長身である。（大宜見さんてあんなにイルシルー（色白）だったかネエ）と思う間に、英雄が話しはじめた。

「今日は、日曜日なのに、私の為になんぞ送別会を開いてくれて、またこんな大勢のメンバーに集ってもらい、まずお礼のあいさつをさせて頂きます。今日は本当にありがとうございます。」

さて、私達の対米交渉研究会というサークルができて二年がたちました。最初は、私と大潮さん、宇良さん、我如古さん、そして民政府の職員、私達の大先輩の砂川さんが顧問を引き受けてくださって、五人でのスタートでした。でも今は、会員三十名をこえるサークルになっています。大変嬉しい事です。皆さんのご存知のように、私は三月で卒業となり、このサークルを去る事になりました。私は、この二年間、会長として務めさせて頂きましたが、最後の務めとして、次の会長を指名させて頂きたいのですが、よろしいでしょうか？」

拍手と共に、「そうして下さい」という声も飛ぶ。拍手がやむのもまたず英雄は大きな声で

「では、次の会長には、大潮さんを指名します。」英雄の言葉が終わらないうちに、またもや大きな拍手が響きわたる。なかなか

か拍手がやまない。英雄が手を上げてやつと部屋が静かになる。

「では、新会長の大潮さん、あいさつをお願いします。」

英雄の紹介に立ち上がったのは、メガネをかけて髪を刈り上げた英雄と同じくらいに長身の男性だ。洋子はすぐに「アイヤ、メガネがよく似合う人だね、あんなにかっこいいメガネのひとつで初めて見るサ」思った。

「改めて自己紹介します。私は、大潮武といいます。玉城（タマグスク）から（玉城は沖縄本島の南部の島尻郡と呼ばれている地方に位置している）琉大に通っており、今年四月から四年にあらります。卒業するまでの残り一年間、会長として一生懸命つとめさせてもらいます。」と大潮が頭をさげた。すると、前列にいる女性が、

「新会長としての抱負を述べて下さい。」と、立ち上がって言う。

大潮は、少し戸惑った表情をしたが、すぐに引き締まった顔になって、

「では、私の抱負というか、私のこのサークルに対しての願いとして、話をさせていただきます。」

先ほど、私は玉城から通っていますと言いましたが、もちろん生まれも育ちも玉城です。私の子供の頃にはまだ、畑や原っぱから、不発弾や小銃の弾、そして手榴弾などが出て来ました。沖縄の激戦地だったのですね。多分まだ残っているのだと思います。でもそれは、玉城だけではなく、中部から南部一帯は全部そうだったのはミナサンもご存知だと思います。三年程前ですが、大きなガマ（洞窟）が玉城で発見されました。いまだに全長というか、奥行きがどの位あるのか分からない程の大きなガマです。予測では、全長三千Mから四千Mはあるんじゃないかという事です。

このガマは、玉泉洞という名前にしようという話もすでに出て

いるようです。なぜこのガマの話をするのかというと、沖縄戦のとき、このガマがあるという事を沖縄の住民が、知っていたら、どれだけの住民が隠れて、逃げ込んで生き延びる事ができたろうかという事です。でも、ある人が言うのには、このガマが知られていたら、日本軍が基地に使って沖縄戦が長引いてもっと大変な状況になっていたかもしれないのです。私は、それもそうなのかナアと思いますが、しかし、このガマがある事さえ誰も知らなかった、現実にあるのに誰も気が付かなかたんです。

ひよっとしたら、今の沖縄の状況も本当は、沖縄の進むべき、より良い道がすぐそばに、現実にあるのに誰も気が付かない、知らないんじゃないのかと思います。ですから私の会長としての抱負は、沖縄の本当に進むべき道、より良い道がどこなのか、どうであれば良いのかを探求、研究をしていきたいと思っています。

私達のサークル名、対米交渉研究会、その名のとおり、アメリカに對する交渉、そしてその分析こそ、私達沖縄の進むべき道に大きな影響を与えるものだと考え、みなさんと一緒に、アメリカの本音をとことん勉強、探求していききたいと思っています。」大潮が話し終えるや否や、大きな拍手が響く。

いつまで続くのかと思える拍手の中、洋子は、妙な感覚が体の内から（ナンナノ、この感じ、私なんかへんな感じがする、どうしたの？どうなってるの？）洋子のマブイ（魂）も体も、部屋の日井まで上がっていくようだ、自分の体も心もどうなっているのか分からなくなっている。そして、上から部屋の様子を見ながら、（誰か、私に気が付いてちょうだい、マブヤー（魂）戻してちょうだい！）叫んでも声にならない。この後、この妙な事が、何度も洋子に訪れるのをまだ知っていない。

物語・朝鮮事情70年

(12)

(二) 覇権主義と主権の二つの潮流

第三話／朝鮮戦争～新たな政治主体
とスーパーヘゲモニーの対決

金 宗 鎮

(はじめに)

ジョセフ・ナイは最近著『アメリカの世紀は終わらない』(日経新聞社・二〇一五)でアメリカのヘゲモニーについて、

「一九四五年に始まり、世界の生産に占めるアメリカのシェアが戦前の水準である四分の一に低下した、一九七〇年代までであろう」と述べてつづ、

「ソ連が核兵器を手中にしたこと、共産主義政権が、中国そしてベトナムの半分を手に入れたこと、朝鮮戦争が膠着状態に陥ったこと、そしてカストロによるキューバの支配、これらを目の当りにした。」と述べています。

アメリカのヘゲモニー衰退の要因の一つに朝鮮戦争の失敗があげられています。

にもかかわらず、朝鮮戦争は連国により異なる戦争記憶や歴史解釈が存在しているばかりか、「米国の歴史に近しい朝鮮戦争の忘却といった事情」があると、汪暉は『世界史のなかの東アジア』(青土社、二〇一五)で指摘しています。

アメリカのヘゲモニーの衰退の一つの要因となった朝鮮戦争は、

正に東アジアの歴史を変えた戦争でした。そして現在に至るまで、停戦(休戦)状態にある戦争であり、東アジアでの戦火の再発のおそれのあるものです。

この七〇年間のアメリカの戦争に関して私たちは、ベトナム、アフガン、コソボ、イラク、シリア等々の戦争について多くのことを報道で耳にしています。

しかし、こと朝鮮戦争に関しては、「北の侵略」で済まされています。「歴史」は伏せられたままです。

一方ではアメリカによる「一九九三年攻撃」と現在の「北の脅威」による戦争状態は一方的に流布され続けられています。

私たちは東アジアの新しい流れ・歴史を、朝鮮戦争の中から発見すべきです。

歴戦強者の米軍はかつて遭遇したことの無い軍勢力と人々の力に当惑しました。米軍は後にベトナムでも同じことを経験します。

兵器の重要性を否定することではないが、しかし柔軟な戦略戦術及び強靱な戦闘意志によって敵を打ち破る、人間の力量の存在を戦争史は知ることになりました。

この朝鮮戦争は今日でも「停戦状態」であり、いつ再戦になつて

も不思議でない危険な状況にあります。

(一) マッカーサーの罷免

トルーマン大統領は一九五一年四月九日、マッカーサーの解任を決定し、十一日午前一時「特別記者会見」で、報道官を通してこれを発表しました。

マッカーサー本人に通知される以前に、世界に知らされました。怒り心頭に発した(マッカーサー)元帥は「この苛酷な方法」は「史上に類例のない」「礼を失した所為」とぼやいたそうです。

マッカーサーは一瞬にして、「連合国軍最高司令官」「国連軍最高司令官」「極東方面総司令官及び米国極東軍司令官」の地位を失いました。

トルーマンは自身の回顧録の中で……、クリスマス攻勢の失敗について、

「マッカーサーを責めない、私は彼が自己の失敗を弁明する態度を責める。彼はこの攻勢を『戦争終結の攻勢』と公言する必要がなかった。彼は公言が実現しなかったのは米政府が彼の希望通りに事を推進しなかったためであるとい

う。全く正しくない。私はこの時に彼を解任すべきであった。」と述べています。

ちなみにマッカーサーの「希望通り」とは、中国封鎖、(中国)東北地方爆撃、原子爆弾の使用、蒋介石軍の投入等です。

マッカーサーの罷免の意味するところは何か?

世界中が認めるような最新式武器と重装備で武装し、制空権・制海権を持つ米軍が、軽武装で武装した歩兵だけの軍隊によって惨敗する状況で、マッカーサーの言う戦争の拡大を望まなかったからでしょう。

朝鮮戦争で世界の人々は、「米軍が重武器を十分に發揮できないゲリラ戦ではなく、流動的進攻作戦や陣地戦で対峙するという大兵团の戦闘に有利な条件においてですら米軍は勝利できなかった。」(汪暉『二十世紀中国史という視野における朝鮮戦争』)ことに驚きました。

(二) マッカーサーの仁川上陸作戦

① 仁川上陸作戦の策定

米極東司令部の東京会議に、ワシントンから陸軍参謀総長コリンズ、海軍作戦部長シャーマン、そしてマッカーサー配下の極東参謀総長、極東空軍司令官、極東海軍司令官、水陸上陸両用特戦専門家等が集まりました。

朝鮮半島の南海岸に追い詰められた米軍のピンチを切り抜けるための対策として、仁川と群山、注文鎮地域の上陸作戦が論議されました。

ワシントン派とマッカーサー派の、仁川か群山か、の論戦の末にマッカーサーの主張により、仁川上陸作戦が決定されました。ちなみに帝国陸海軍の旧日本軍人は群山上陸をマッカーサーに提言しています。

釜山と仁川の包囲網は広すぎる、との理由からでした。

第一海兵師団と七歩兵師団を基幹にして第十軍団が編成され、第七連合機動艦隊が編成されました。

艦船

米第七艦隊	二二六隻
英艦隊	十二隻
カナダ艦隊	三隻
オーストラリア艦隊	二隻
ニュージーランド	二隻

飛行機

米第五空軍 極東空軍艦載機、第一海兵飛行団

約一〇〇〇機

フランス	一隻
韓国	十五隻
日本	五十隻
計	三十一隻

日本は海上保安庁の「軍人」と労働者による水路案内、掃海作業、米兵の輸送を担当しました。

② 仁川・ソウル占領

何と米軍大兵力は仁川上陸に三日間もかかりました。仁川の海にある月尾島の朝鮮人民軍一個中隊の四門の大砲が勇戦したのです。

上陸後もソウルでの市街戦をようやくのことで制圧しました。

マッカーサー元帥は十四日を費やしてしまいました。

金日成最高司令官は『米帝国主義侵略者たちは人民軍部隊の主力を包囲したと喜び勇んだが、包囲は形式にすぎませんでした。包囲は範囲が広すぎたので敵の手にはおえませんでした』(『金日成著選集』六巻一二九頁)と仁川上陸作戦を評しました。

マッカーサーの仁川上陸作戦は

上陸にはせいこうし、人民軍主力部隊を洛東江から退かせることに成功したが、戦略的目的である朝鮮主力部隊の消滅には失敗しました。

群山上陸を主張したコリンズは、「二階から目撃した」とし、と評しました。

米ニューヨークタイムズ紙は、「成功の影にひそむ小さからぬ失敗」と記しました。

モスクワ発AP通信は、「元帥ならぬ伍長でも出来ること」と報じました。

『月尾島』は朝鮮で映画化されましたが、世界戦史上に見られない出来事でした。

また仁川上陸後も一人の老人が米軍の行手をさえぎり、射殺されますが、土地改革で分与された一枚の土地所有証が握られていたそうです。

米軍は想定外の「人民の戦争」に畏怖を感じたことでしょう。

マッカーサー元帥の戦略的失敗は、抗日を十五年も戦い、国共内戦を戦った人民の軍隊、そして宿願の土地証書を手にした農民の力、この軍隊と農民の一体化した力でした。「郷土を守る人々」でした。

論 評

朝鮮民主主義人民共和国
ピョンヤンからの
通信



【編集者まえがき】 本「論評」欄は、我が国とは未国交状態にある朝鮮民主主義人民共和国の立場や日朝関係を含む諸見解を理解できるように、同国の対外文化連絡協会（ピョンヤン）から日朝協会愛知県連（名古屋）に直接送られる情報・資料をそのまま紹介する欄です。

地域情勢はわが共和国の核抑止力強化を求めている

朝鮮対外文化連絡協会

【朝鮮民主主義人民共和国
ピョンヤン 2017年3月20日発】
原文 日本語。タイトルも原文
のまま。

弄しています。

アジア太平洋地域に対するアメリカの武力増強は明白に地域の諸大国を力で抑え、覇権をとるためのことであります。

この地域を掌握してこそ、世界制覇野望を実現できるというのがアメリカの判断であります。

しかしこの地域には、アメリカが自分に挑戦できると見ている中国とロシアがあり、この国がある限り、地域に対するアメリカの支配は事実上不可能であります。

アメリカはこれを力で解決しようとしています。

米軍部の上層部は、武力で中国の太平洋進出を遮断すべきであると公に言っています。

実際に米核航空母艦が中国の周辺を巡っており、アメリカのICBMの実験発射が相継いでいます。

中国とロシアの核報復打撃能力を無力化する目的で南朝鮮への「THAAD」配置が急ピッチに進められています。

アメリカは、大国の力を借りてアジア太平洋地域で自利を得ようとする日本のような追随勢力まで

アジア太平洋地域が大国の角逐の場となっています。

大国は、アジア太平洋地域に政治、経済、外交の重点を置き、自分らの勢力圏を広めようとしています。

顕著に表れているのが、アメリカの武力増強と軍事的動きであります。

各種のミサイル実験発射を次々と強行するなど、地域で力を誇示する行動を繰り返しています。

二〇二〇年まで海軍武力の六〇％以上をアジア太平洋地域に配備することを目標としているアメリカは、すでに西太平洋水域に三つの核航空母艦打撃集団を展開しま

す。しかも米軍は、誰からの「脅威」

を云々しながら「国際秩序を変えようとする企図を許せない」だの、

「米軍の近代化、兵力と武装装備の拡充が必要である」だのと途方もないことを言っています。

要するに、アジア太平洋地域で自分らの武力増強が国際秩序と平和と安定保障のためであるということなんです。

誰もアメリカに地域の秩序を維持してくれることを請託しませんでしたし、平和を守ってくれることを頼みませんでした。

アメリカは国際社会をひどく愚

自分の戦略実現に利用しようとしています。

米日同盟強化を云々しながら日本の西部に先端武装装備を集中的に配置しています。

中国との領土紛争問題を抱えている日本の心理を利用して、紛争地域が米日安保条約の適用対象であると言いい、中国との力の対決へ唆しています。

日本は自分なりの目的達成のためにアメリカのアジア太平洋支配戦略に積極的に追従する一方、この地域に利害関係を持つている他の地域の諸国まで引き入れていきます。

先般日本が、フランスとの外交・軍事当局者会談で中国が南海で緊張を激化させてはならないという内容の声明を発表し、南太平洋にあるヌーベルカレドニーなど武力を展開しようとするフランスの立場を支持しながら、日本の「自衛隊」とフランス軍との物資交換を規定した物品労力相互提供協定締結のための交渉を開始することに合意したことがその代表的実例であります。

日本はすでにアメリカ、イギリ

ス、オーストラリアとこのような協定を締結しましたし、カナダとの協定締結も進めています。

アジア太平洋地域におけるアメリカの武力増強が地域の諸大国を任意の時刻に先制攻撃するためのものであることは言うまでもありません。

ロシアと中国もこれを知らないわけではありません。

ロシアは、すでにアメリカに対応措置を取るということを警告し、実際の行動に移行しています。

中国も核攻撃能力を高めるために力を入れています。

最近、アメリカのMDシステムを無用なものに出来る多弾頭ICBM実験発射を行い、最新型IRBMを公開しましたし、南朝鮮への「THAAD」配置に強く反対しながらそれを防ぐための手段と方法を尽くすということを宣言しました。

アジア太平洋地域には軍備競争の嵐が吹き荒れ、情勢は日増しに激化しています。

アメリカは全朝鮮半島に対する支配を実現してこそ東北アジア、ひいては世界を制覇できると認め、

わが共和国を占領することを優先的戦略目標と押し立てています。

米国防長官マーチスが南朝鮮を訪ねてわが共和国の「脅威」に対処しなければならぬと言いい、軍事専門家が日本に展開したステルス戦闘機の第一の目標は朝鮮半島であると言っていることは非常に意味深長であります。

これは、アメリカがアジア太平洋支配戦略を実現する上でわが共和国を主なターゲットにしているということを実証しています。

アメリカは、自分の目的実現のために南朝鮮駐屯米軍兵力を質量的に強化していますし、毎年南朝鮮とその周辺でわが共和国に反対する戦争演習を絶えまなく行っています。

去る(三月)一日からはわが共和国の重なる警告と内外の強い抗議・糾弾にもかかわらず、史上最大規模の「フォール・イーグル」合同軍事演習を開始しました。

二ヶ月にわたって強行される「フォール・イーグル」合同軍事演習とあわせて今月の十三日からは「キー・リゾルブ」合同軍事演習を行います。

歴代最大規模で行われる今回の戦争演習には、南朝鮮駐屯米軍と海外から増派される米軍兵力、南朝鮮がいらい軍、いくつもの追隨国家兵力を含めてかつてなく膨大な侵略武力が参加するそうです。

それだけではなく、米軍の核航空母艦「ロナルド・レーガン」号、「カールビンソン」号打撃団と核潜水艦、核戦略爆撃機、ステルス戦闘機、イージス駆逐艦など各種の戦略資産も投入されるそうです。

これは、今回の合同軍事演習に史上最大規模であるといった昨年来を凌駕する戦闘力が動員されるということを示しています。

アメリカの無分別な策動のために朝鮮半島と地域情勢はさらに厳しくなり、いつ戦争が起きるかわからない危険極まりない事態がもたらされています。

朝鮮半島の平和は東北アジア、世界の平和と結ばれています。

万一、朝鮮半島で戦争が起こるとその影響はいずれにしても周辺諸国に拡大され、世界的な核戦争にならざるを得ません。

アメリカとその追隨勢力の核脅威恐喝に対処して朝鮮半島と地域

わが共和国の核抑止力強化措置は正当であり、誰も言いがかりを付けられない自主的権利であります。

グループ紙誌
拝見

○トランプと労働組合…大木一訓
○軽貨物事業・委託労働者の勤務
実態…偽装委託契約で丸投げ派遣
労働を告発する…黒島英和

○【やめて戦争法 学習講演会 天
白区・守山区】憲法9条をいかし
た国際貢献が重要▽池住義憲さ

第48回韓国歴史・文化フォーラム

韓国古代史と



山城

ほか

■発行/日朝協会（発行責任者＝石橋正夫） ■ 昭和 28年 11月30日 第三種郵便物認可
■編集/日朝協会愛知県連合会事務局 ■464-0853 名古屋市千種区小松町6-9-1
■Tel・Fax/052-731-9445 ■Eメール/y-koide@mse.biglobe.ne.jp
■サイト/ <http://www.aichi-niccho.com/>

【表紙】三浦雅子